

いい声 いい顔 いい心

主幹だより No. 2 6
文責：城

県学力調査に向けて（強化月間）

「熊本の学び」アクションプロジェクト（柱1：誰一人取り残さない学びの保障、柱2：教員一人一人の授業力向上）の実践の場がやってきました。「県学力調査」です。職員会議でも提案があったように強化月間として位置づけ、学力向上を図ってください。気付けばあと一か月半です。傾向をつかみ、対策の強化を学年で図ってください。

傾向と対策（昨年度も掲載しましたが…）

「過去問をとにかく解かせる。」これも一つの方法ですね。しかし、子ども自身が出題傾向や自分の実態をつかんだ上で、対策を講じながら過去問を解くのでは、効果が違います。先生がその点を指導されることをお勧めします。

国語の「聞き取り問題」を例にとります。聞き取り問題の出題は、以下の3点のパターンに類別されます。

①話の内容をたずねる問題

②表現の工夫・話の進め方・話した順序等の表現技法を問う問題

③「自分はどう考えるのか」を問う問題（条件に合わせて答えさせるものが多い）

②や③は後から考えれば対応できます。ではCDを聴きながら絶対メモしなければならないのは…そう、①です。これを意識させた上で、メモをとる練習をするのです。そこで課題になるのが「メモが早く取れない」という児童の実態です。そこで単語、矢印、

記号などを駆使しながらメモをする練習をします。ここを徹底指導です。教師がデモンストレーションするのも、児童のイメージ化につながります。練習は、授業開始の5分を使ってもいいでしょう。帰りの会のスピーチを活用する方法もあります。（私は練習をした後、県学調やNRTの前に業者の聞き取りテストを実施していました。予行みたいなもんです）

②については、授業でその都度教えていきますが、学力充実の時間を使って復習をしていました。その時間の最後は適用問題をさせます。できていなかったら再指導や個別指導です。

③は児童が一番苦手意識を持っている部分でもあります。コツをつかませながら練習させることで書ける児童が増えてきます。コツとは…、「問題文の文章を引用する」「キーワードを使って書く問題は、そのキーワードの順番に言葉を繋げていくとわりと書きやすい」「文字制限は最後の一文で調整する。」「長い文になると、主語と述語がかみ合わなくなる児童がいるので、短い文で書かせる」などです。

このような傾向と対策を行った上で過去問にあたらせると、「俺って、結構解けるかも」と思う児童が出てきます。あと1か月半、県平均以上を目指して頑張りましょう。



運動会練習本格化

運動会の全体練習も始まりました。昼休みも応援団や和太鼓、代表リレーの練習が行われており、だんだん気持ちも高まってきていることでしょう。きつさや困難を乗り越えることで大きく成長させるチャンスです。子供の体調に十分留意しながら、最高のパフォーマンスを目指しましょう。

先生方ご自身の体調にも気をつけてくださいね。



～ティータイム～

「うろ覚え」

悲しいかな、父に似たのか、我が子は最近怒りっぽい。「そぎゃんこつで、いちいち怒らんちやよから!」ということで、兄弟姉妹で言い合いをしている。「カルシウムが足りとらんとたい」と、私や妻に言われるのだった。

先日、妹（小1）がキレているのを見て、息子（小3）もこの言葉を使ってみようと思ったのだろう。「ホルモンが足らんとじや」・・・殺伐とした空気が一変し、和やかムードになった。でも、日本語は正しく使わんとねえ。

